

花粉防御用眼鏡および、老眼鏡をご使用になる際のお取扱いに関するご注意

花粉防御用眼鏡は、花粉が目に入ることを防ぐため、フレームの張り出しが通常の眼鏡より顔面に近くなる形状となっています。特に活動的な日常生活を営むお子様が子ども用の花粉防御用眼鏡をかけて体育を行っていた児童が友達とぶつかり目の上を眼鏡の縁で切るなどの事故情報が、各メディアや事故情報データベースシステム（注）に報告されたり、弊社にも児童が下校時にエントランスで転び、9針の縫合を必要とするケガを負ったという事故情報のご報告を頂戴しております。

老眼鏡もまた、加齢により水晶体の弾性が失われて調節力が弱まり、近くのものに焦点を合わせることができなくなってくる症状を矯正する為の製品ではありますが、使用時は遠くが見えづらくなる場合があります。したがって、近くのものを見る際に限定的に使用されるべきものですが、使用した状態での歩行や車の運転などは事故を誘発しかねない状況となる事が予測されます。

弊社は今後の被害の未然・拡大防止のため、当ホームページにての告知や、可能な限り商品パッケージなどへの記載を通じて、お客様に情報提供するとともに使用にあたっての注意喚起を行いたいと考えています。

平成 26 年 3 月 吉日

株式会社ジェーシー

株式会社エーエムシー

株式会社 F & E W リテイリング

（注）事故情報データベースシステムとは、消費者庁と独立行政法人国民生活センターが連携して、関係機関の協力を得て実施している事業です。